

# ひろば



創立20周年記念特集号 (Vol.2)

発行 印西市国際交流協会広報部

## 広げよう、国際交流の輪を！

印西市国際交流協会は今年4月、創立20周年の節目を迎えました。これもひとえに設立に携わった諸先輩の皆さまはじめ印西市のご支援、そして何よりもこの間、会員の皆さまより頂いた当協会の活動へのご理解とご協力の賜と改めて深く感謝申し上げます。

さて、世界はいま新型コロナウイルス感染症の拡大と闘っています。残念ながら、私たちの活動も昨年の年初以来現在に至るまで自粛・制限を余儀なくされていますが、このたび創立20周年を機に、会員の有志の方々にこれまでの活動を振り返りつつ、今後私たちが目指す方向性や具体的な活動のあり方などについて自由に語り合っていました。

この創立20周年記念特集号 (Vol.2) では、そこで語られた皆さんの声を項目別に要約してご紹介します。

### 私たちの今

私たちは、国際交流とは何かと考えるとき、「異文化理解」、「多文化共生」、「相互交流」という三つの側面があるとの見方に立って、それらを具現化する活動を展開してきました。

#### ■様々な交流イベントの開催

私たちは、これまで木下の七夕や川めぐり、外国人のための弓道体験、木下の歴史散歩などのイベント、さらには印西クリーンセンター、日本医科大学北総病院のドクターヘリなどの見学会の開催を通して市内在住の外国人の皆さんに日本の文化や印西の街を紹介しました。

一方、「印西ワールドフェスト」、「世界の料理体験」など、日本人の皆さんが外国の舞踊や音楽、食文化に触れることのできるイベントを開催しましたが、これにも毎回多くの市民が参加し外国人の皆さんとの交流を楽しみました。

また、原則として毎月一回開催しているフレンドシップ・カフェは、今では日本人市民と外国人の皆さん、会員間の交流の場として定着してきました。今後も異文化理解のためのプレゼンテーションを企画するなど一層有意義で楽しいカフェとなるよう努めていきたいと思えます。



昨年10月、新しい活動として木下駅南骨董市への出店を始めました。私たちは、同骨董市に参加することで、木下地区の町おこしに協力するとともに、外国人訪問者を木下の歴史に触れるツアーや船めぐりにお誘いするなど国際交流活動の拠点としていきたいと考えています。

#### ■語学講座の開催

私たちの外国語講座は英語、中国語、韓国語のクラスを展開しています。私たちは、そこで受講する皆さんが語学力を高め外国の方々との交流を積極的に進めていけることを念願しています。近年、アジア地域の言語への関心が高まっていますが、今後はタイ語など新たな語学教室の開設も目指しています。

#### ■「日本語教室りぼん」の開催

印西市には、2020年3月現在、65以上の国・地域出身の約2,400人の外国人が住んでいます。私たちが主催する「日本語教室りぼん」は、これら外国人の皆さんが日本語や日本の文化・習慣を学ぶことにより印西市での生活をより便利・快適にすることを目的とし、20年間にわたり開催してきました。教室は、外国人の皆さんが参加しやすいように市内5カ所で開いており、受講もいつからでも開始できます。今後は、外国人市民の増加への対応と、講座の一層の充実のために支援スタッフの養成にも積極的に取り組んでいくことにしています。



■若い世代の国際理解を深めるための活動

私たちは、印西市教育委員会が主催する「小学生のイングリッシュ・トレセン」にALT（外国語指導助手）の支援ボランティアとして参加しています。

昨年11月、印西市の要請により、「日本語教室りぼん」の学習者の代表が滝野小学校で開催された異文化理解講座に講師として参加し、それぞれの出身国の紹介をしました。一方、小学生たちからも日本文化を学ぶなど楽しい交流のひとつを過ごしました。

小学生時代から英語に親しみ、その能力を高めること、また外国の事情や文化に触れることは、印西市の若い世代が国際交流への関心を深め、国際感覚を身につける上で最も重要と考え、私たちは今後もこのようなプロジェクトを積極的に応援していきます。



私たちの課題・そして未来

日本のグローバル化の中で、印西市が真の多文化共生の街となるために、私たちは国際交流活動の一層の充実と多角化を図りたいと考えています。その中には海外の都市との交流も含まれるでしょう。イベントの内容や開催方法についても、市民がより気軽に参加でき、外国人市民との交流の楽しさを実感できるものに変えていく必要があると認識しています。

しかし、現状では私たちは、まだまだ力不足です。今後、活動を活発なものにするためには、新しい会員を増やすことは当然のこととして、若い世代や外国人市民を含め、一人でも多くの方々に企画・運営に携わっていただくことが肝要と考えています。

この1年間、未曾有の新型コロナウイルス感染拡大のために、世界中で従来の市民生活が大きく制限され、変容を余儀なくされています。当協会の活動もこれまでの常識にとられることなく新しい発想に基づいた活動に変える必要があるでしょう。今後、私たちは、印西市に住む外国人市民の皆さんに対し、この変化した環境の中で、より楽しく暮らすための情報や一緒に遊べる場を提供するとともに、日本人市民の皆さんには、知恵を絞りながら新しい形の国際交流活動を提案し、参加を呼びかけてまいりたいと考えています。

さあ、一緒に国際交流の輪を広げましょう。

一緒に活動しませんか？

入会をお待ちしています  
詳しくはこちら



開催予告

創立20周年記念講演会

ネパール ヒマラヤ トレッキング  
— 河口慧海の道をたどる —

講師：竹花 晃 氏  
東京都山岳連盟海外委員  
日本山岳会等会員、印西市在住



コロナ禍のため延期しておりましたが、状況が許し次第開催いたします。

日時・会場は当協会HP、印西市広報誌等でお知らせします。ご期待ください！

TOPICS in 2020



9月23日、4名の日本語教室りぼん学習者が印西市主催の「外国人市民懇話会」に参加し、印西市に期待したいことなどについて積極的に意見を述べました。



コロナ禍の中、頑張っている東京基督教大学の外国人留学生の皆さんにお米と食料品を贈りました。



活動紹介と国際交流のための10月より木下駅南骨董市への出店を始めました。

## 日本語教室いほん学習者からの便り

### 中国と日本の違いは？

唐 萍さん (中国)



私の出身地は中国の湖北省です。日本人の夫との間に中学 2 年生の男の子と小学 4 年生の女の子がいます。

母国との違いを特に感じるのは安全なところ。電車の中で平気で寝られるし、街を歩いているときにスリや強盗の心配もありません。忘れ物は当たり前に戻ってきます。探しに来る人が見つかりやすいところに落とし物が置いてあるのを目にすると、日本人の優しさを感じます。

そして、日本人は真面目です。適当に答えたりしません。情報はほとんど信じて問題はないです。

ただ、日本の学校の宿題は少ないと思います。子どもに勉強の習慣がつかないし、学習時間が足りないと思います。

中国の中学生は宿題が多くて、朝 6 時から 12 時ぐらいまで勉強していて遊ぶ暇もないほどです。両国の間がちょうど良いと思います。

来日してから 16 年が経ちました。日本の安全さ、清潔さ、ルールを守るところなど好きです。日本は第二の母国と思っています。

### 桜への愛情

レー・ティ・ヌーさん (ベトナム)



日本で 7 回目の桜シーズンを迎えました。私の気持ちは、ベトナムから日本に来て初めて桜を見た時と変わりません。

アパートのそばの桜の木は、冬でもきれいです。毎日、保育園に行く娘は、桜の木を見上げて言いました。「ママ、つぼみが寝ている。かわいい」。ほんとうだ。葉っぱがなくて枝しかない桜の木に、数え切れないほどのつぼみがぐっすり眠っています。

桜のつぼみは春が来る合図でした。一つのつぼみが咲くこと、それは自然の不思議です。娘は「ママ、花が咲いた。春が来た。」そして「はるがきた」という歌を歌いました。

花が一斉に咲くと、天国に迷い込んだような気持ちになります。風が咲くと桜の花びらが、数えきれないほど雪のように落ちてくるのは、すごくきれいで、雪の花びらの世界の中に入ったような気がします。

しかし、私が勉強している『日本語教室いほん』の先生方への思いは、桜以上です。先生方の熱心なご指導、ありがとうございます。

### 来日一年半を振り返って

付 玉倍さん (中国)



一年半前に中国から日本に来ました。飛行機から降りて、初めて日本の地を踏んだ時、『これからはしばらく日本で生活していくのだ。』と自分を奮い立たせたことを覚えています。

最初は日本語が分からず、生活が大変でした。お隣さんとの付き合いは、挨拶の「こんにちは」しかできず、

他人と会話するのが怖くて、家から出かけることがどんどん少なくなっていったのです。そして日本での将来も描けず、生活していく気力もわからず、かなり悩んでいました。

ある日、知り合いから「日本語教室いほん」を紹介してもらい、授業を受けることにしました。日本語や日本文化に疎い私に、先生は噛み砕くように熱心に教えてくれ、私もだんだん日本の生活に慣れて友達もでき、自信を取り戻せるようになりました。

半年前、友達が「ガイド通訳案内業」という仕事を教えてくれました。私は日本の都道府県すべてを旅行することが夢で、日本の歴史、地理、伝統文化などの勉強を始めました。勉強をするうちに、どんどん日本の事に興味が出てきました。そして、将来ガイド通訳案内士になって、多くの中国人に日本の素晴らしさを、伝えたいと思います。

### 白鳥の郷

魏 碩芳さん (中国)



2 年ほど前に、船橋から印西市に引っ越してきました。印西市は緑が多く、道も広くて住みやすい町と聞いていたからです。

自宅の近くに白鳥の郷があり、12 月頃から沢山の白鳥がシベリアから飛来すると聞いて、2 月末に子供を連れて見学に行つて来ました。そこでは沢山の白鳥が水田で泳いだり、遊んだりしており、とても心が和みました。

13 時から地元農家の方がお米を水田に撒いて、白鳥に餌をあげていました。その餌は地元の白鳥愛好会の方々が、自費で購入しているそうです。餌は 1 回で 5、6 袋必要で、1 日 2、3 回ほどあげていると聞いて、感動しました。

1992 年はじめて白鳥が飛来して、その年は僅か 6 羽だったとのこと。以降、毎年白鳥の飛来数が増え続け、現在毎年約 1,000 羽が冬になると飛んでくるそうです。

また愛好会の方々は、井戸並びに揚水ポンプを水田に設置して、白鳥達に綺麗な水を供給して、自然を守っています。

このような人々の地道な活動によって、自然環境が守られていると実感しました。いつまでも白鳥の郷に沢山の白鳥が飛来して来ることを、祈っております。

## ようこそ印西へ！

東京基督教大学の留学生、マックスさんの寄稿をご紹介します。

### Adventures in Inzai

Last October, I finally arrived in Japan to start the next chapter of my life's story. I have been to Japan twice before, but I have never been to the city of Inzai. When my two-week quarantine ended, I went on an adventure to explore the area that I would call home for the next four years. I was not disappointed.

Like my hometown in the state of Colorado, USA, there is a mix of farmland and suburbs, but Inzai feels more connected and accessible. For example, I can ride my bike from my school to AEON mall quickly, and I don't have to drive a car. Not having to use a car also gives me more time to enjoy nature on my way to work.

The hills, the trees, the rice fields, and the animals make me so happy. When I need to get some fresh air, I go to the park near my school to study while enjoying the beautiful scenery. Being able to go to places easily has also given me opportunities to meet new people.

Everyone I have met in Inzai is so friendly. I have had fun conversations with Konbini staff, post office workers, and people on the street. Though I have only been living in Inzai for a few months, I feel like I have lived here forever, and I am never bored. Once the Covid pandemic is over, I can't wait to go on more adventures in Inzai. I also can't wait to give my family a tour of this fantastic city when they come to visit.



大学近くの公園で

Max Daniel Almas

#### 印西を探索する

マックス・D・アルマス

昨年10月、ようやく日本に到着して新たな人生の物語をスタートすることになりました。かつて二度ほど日本を訪れたことはありましたが、印西市へ来るのは初めてです。2週間の隔離が終わると、私はこれからの4年間我が家と呼ぶことになる地域の探索に出かけました。それは、まったく私をがっかりさせませんでした。

米国コロラド州にある故郷の町と同じように農地と住宅地が混在していますが、印西の方がどこへ行くにも便利なように思えます。例えば、車を運転する必要もなく、自転車で大学からイオンモールへ簡単に行けます。車を利用する必要がないので、道中の自然をより多く楽しむこともできます。

丘、木々、稲田そして動物たちが私をハッピーにさせてくれます。新鮮な空気を吸いたくなったときには、美しい風景を楽しみながら勉強するために大学の近くの公園へ出かけます。どこへでもたやすく行けることで、より多くの新しい出会いの機会も持つことができました。

印西で出会った誰もが友好的でした。私はコンビニの店員さん、郵便局の人たち、通りで会った人々との会話を楽しんでいきます。印西にわずか数ヶ月住んだに過ぎませんが、ずっと長い間住んできたような気がします。そして一度も退屈だと思ったことはありません。新型コロナウイルス感染拡大が収束し、もっとたくさん印西の探索に出かけられる日が待ち遠しいです。そして、家族が訪問してきたときには、彼等にこの素晴らしい町を案内することを楽しみにしています。（編集部訳）

#### 語学講座のご案内

楽しく外国語を学びながら、国際交流しませんか？  
詳しくはこちらをご覧ください。



#### 日本語教室りぼん

一緒に日本語を勉強しませんか？

Let's study Japanese together.  
For inquiries & applications:

你想不想跟我们一起学日语？

询问和报名：



### 印西市国際交流協会

〒270-1315 千葉県印西市小林浅間 1-5-2 TEL 070-5519-1661 FAX 0476-42-7310  
ホームページ：http://www.inzaiifa.com E-mail：inzai.ifa@gmail.com